今月の用語

隣に伝えたい新たな言葉と概念

【バブル方式】

英 bubble method
和 バブル方式

この言葉は，2021年に開催された東京オリンピックにおける新型コロナウイルス感染症対策として有名になった.「いわゆるバブル方式」と言われていた．名称はともかくとして方法自体はそれ以前から病院の感染症対策として用いられていた患者隔離の逆応用である．即ち，隔離された側の感染を広く拡散しないことを目的とするのではなく，広く社会に拡散している感染から隔離された側（バブルの内側）への影響を避けることを目的とした逆向きの応用として理解できる.

セーフティネット系の病院（病棟）においては，バブルの内側にいる患者・利用者とバブルの外側にいる外来者の接触を限りなく少なくすることを目的として，１）患者・利用者の行動範囲を制限する，２）病院（病棟）等への人の出入りを最小限にする，３）家族や関係者との面会を制限するなどが手段となる．ここで大切なことは，バブルの内側に患者・利用者の療養生活が存在することで，医療に加えて生活支援への注力が必要になる．通常時には得られやすい病院外の人材による協力は期待できないので，結果的に職員への負担が増加する．バブル方式における制限の程度は，最初に最大限厳しく設定してパンデミックの状況を見ながらゆっくりと緩和していくことが良い．緩和のスピードは世間より遅い程度がちょうど良いのではないか.

（国立病院機構箱根病院神経筋・難病医療センター　小森哲夫）
本誌447ｐに記載